

2:37 人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち、私たちはどうしたらよいでしょうか」と言った。

2:38 そこで、ペテロは彼らに言った。「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。

2:39 この約束は、あなたがたに、あなたがたの子どもたちに、そして遠くにいるすべての人々に、すなわち、私たちの神である主が召される人ならだれにでも、与えられているのです。」

2:40 ペテロは、ほかにも多くのことばをもって証しをし、「この曲がった時代から救われなさい」と言って、彼らに勧めた。

2:41 彼のことばを受け入れた人々はバプテスマを受けた。その日、三千人ほどが仲間に加えられた。

2:42 彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。

2:43 すべての人に恐れが生じ、使徒たちによって多くの不思議とするしが行われていた。

2:44 信者となった人々はみな一つになって、一切の物を共有し、

2:45 財産や所有物を売っては、それぞれの必要に応じて、皆に分配していた。

2:46 そして、毎日心をつつにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、

2:47 神を賛美し、民全体から好意を持たれていた。主は毎日、救われる人々を加えて一つにくださった。

ペテロは悔い改めを人々に勧めました。人が救われるためには、「イエスを信じるだけでよい」という言い方があります。間違っただけではありませんが、それは簡潔な表現であって、省略されていることがあります。

イエスを信じるとは、イエス様が全能で聖なる神であることが含まれています。またそのイエスは十字架で罪の身代わりとして死なれたということも、実はその罪人とは自分自身であるということも知る必要があるのです。それらを含めて「イエスを信じる」ということになります。

しかし現実的に考えて、相手に伝えることのできる順番があります。興味も自覚もない人に、神学や教理の話を経々としても、反感を買っただけでしょう。それは愛のある伝え方とは言えません。ペテロは人々が「心を刺され」ている様子を見て、悔い改めを迫りました。聖霊による判断でしょう。

彼は「イエス・キリストの名によってバプテスマを受ける」ことを勧めました。当時のバプテスマはまだキリストによるものではなかったのです。聖霊を受けるというのではなく、あくまでも儀礼的なものでした。

悔い改めとは、当然イエスが主であること、自分が罪人であることを信じるからこそであり、またその信仰を明らかにするのがバプテスマです。「心で信じて、口で告白すれば救われます」というのと一緒で、信仰を表すのです。

信仰を表しましょう。バプテスマ（洗礼）は神様が定めた表現方法です。信じたならば素直に従うべきです。また表し続けましょう。そうすれば聖霊に満たされ続けることができます。

三千人も人が一度に救われたとありますが、1人1人は信仰を保つことができました。それは宮に集まるという一致があったこと、そして家々に集まるという信仰生活の親しい交わりがあったからです。クリスチャンにとってその2つは決して欠かすことのできないものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

